

舗装復旧指示書

申請番号					
占有者名					
掘削規制の有無		「掘削規制中」の場合 規制期間満了年月日			
自主復旧・受託復旧の別					
路盤先行方式適用の可否					
本復旧舗装構成(1)					
本復旧舗装構成(2)					
本復旧舗装構成(3)					
仮復旧舗装構成(1)					
仮復旧舗装構成(2)					
占有申請地点の標高		mまで	凍上抑制置換え深さ		cm

注1) 仮復旧又は本復旧の舗装構成は、裏面「復旧タイプ別標準舗装構成」を参照のこと。

注2) 仮復旧及び本復旧の標準断面及び本復旧の施工範囲については、「長野市道路占有工事等
共通仕様書」における「舗装復旧標準断面図」及び「舗装復旧範囲平面図」によること。

注3) 路盤先行方式が適用されない場合には別途協議のうえ施工すること。

復旧タイプ別標準舗装構成

本復旧 車道:アスファルト舗装		単位:cm				
種別		区分(タイプ)				
		As-E	As-L	As-A	As-B	As-C
		簡易舗装	L交通	A交通	B交通	C交通
表層工	密粒度アスコン(20F)	5	5	5	5	5
基層工	粗粒度アスコン(20)	—	—	—	5	10
上層路盤工	歴青安定処理材	—	—	5	5	10
	粒調碎石M-40,M-25	10	15	15	15	15
下層路盤工	(再生)クラッシャーラン40-0	20	25	25	35	35
凍上抑制層	(再生)クラッシャーラン40-0	0	0	0	0	0

本復旧 車道:コンクリート舗装		単位:cm			
種別		区分(タイプ)			
		Co-L	Co-A	Co-B	Co-C
		L交通	A交通	B交通	C交通
表層工	コンクリート 曲げ4.5N/mm ²	15	20	25	28
As中間層	密粒度アスコン(13)	—	—	—	4
上層路盤工	粒調碎石M-40	20	20	30	20
下層路盤工	(再生)クラッシャーラン40-0	25	25	30	30
凍上抑制層	(再生)クラッシャーラン40-0	0	0	0	0

本復旧 歩道:アスファルト舗装		単位:cm	
種別		区分(タイプ)	
		歩道-As 一般部	歩道-As(乗入れ) 車両乗入れ部
表層工	細粒度アスコン(13)	3	4
路盤工	(再生)クラッシャーラン40-0	10	15
凍上抑制層	(再生)クラッシャーラン40-0	0	0

本復旧 歩道:透水性アスファルト舗装		単位:cm	
種別		区分(タイプ)	
		歩道-As 一般部	歩道-As(乗入れ) 車両乗入れ部
表層工	開粒度アスコン(13)	3	4
路盤工	クラッシャーラン25-0	10	15
フィルター層	砕砂等	5	5
凍上抑制層	(再生)クラッシャーラン40-0	0	0

本復旧 歩道:コンクリート舗装		単位:cm	
種別		区分(タイプ)	
		歩道-Co 一般部	歩道-Co(乗入れ) 車両乗入れ部
表層工	コンクリート 曲げ4.5N/mm ²	7	10
路盤工	(再生)クラッシャーラン40-0	10	15
凍上抑制層	(再生)クラッシャーラン40-0	0	0

本復旧 歩道:インターロッキングブロック舗装		単位:cm	
種別		区分(タイプ)	
		歩道-Int 一般部	歩道-Int(乗入れ) 車両乗入れ部
表層工	インターロッキングブロック	6	8
クッション層	砕砂等	3	3
路盤工	(再生)クラッシャーラン40-0	10	15
凍上抑制層	(再生)クラッシャーラン40-0	0	0

仮復旧		単位:cm	
種別		区分(タイプ)	
		仮復旧タイプ1	仮復旧タイプ2
表層工	密粒度アスコン又は細粒度アスコン		
路盤工	(再生)クラッシャーラン40-0		
凍上抑制層			

凍上抑制に必要な置換え深さ		単位:cm				
占有申請地点の標高		350mまで	550mまで	750mまで	950mまで	1200mまで
必要置換え深さ(凍結深さ×0.7)		35	45	55	65	75

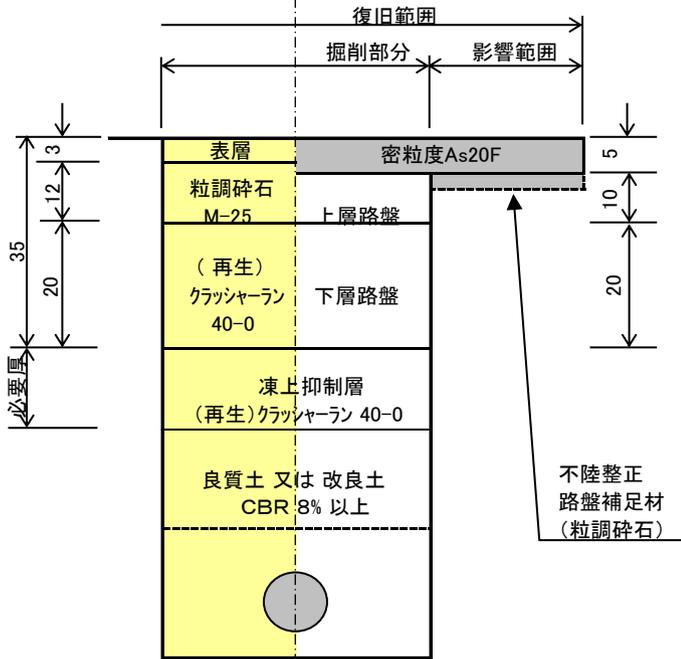
舗装復旧標準断面図

(1) アスファルト舗装：車道部

As-E タイプ

簡易舗装（幅員3m未満で自動車交通が少ない道路）
（標高350m超は凍上抑制層必要）

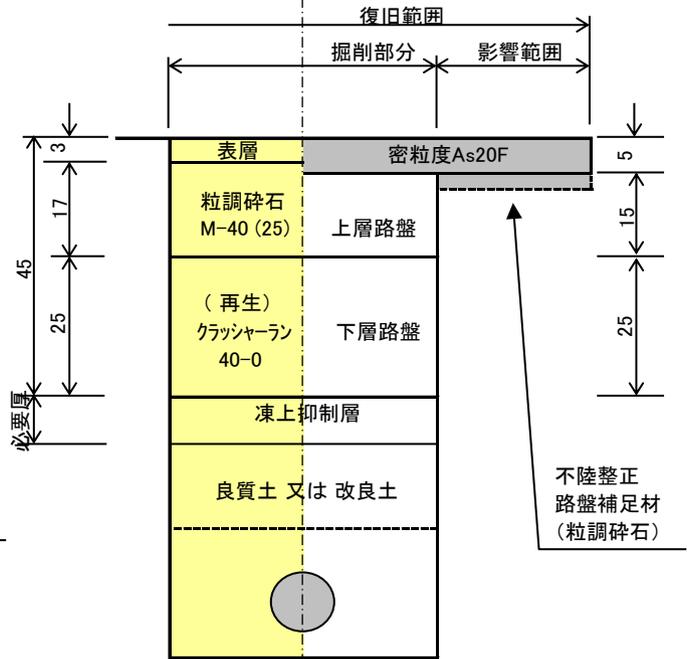
【仮復旧】 【本復旧】



As-L タイプ

L交通（ $T < 100$ ）
（標高550m超は凍上抑制層必要）

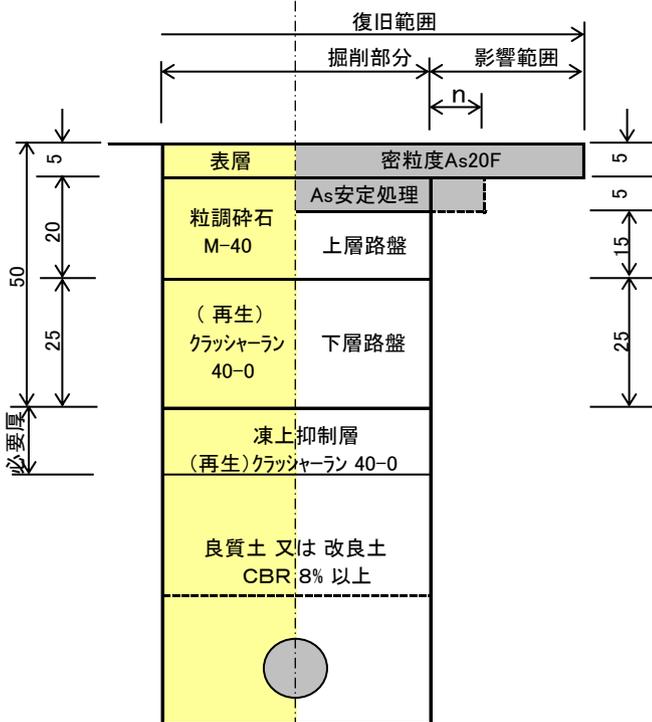
【仮復旧】 【本復旧】



As-A タイプ

A交通（ $100 \leq T < 250$ ）
（標高650m超は凍上抑制層必要）

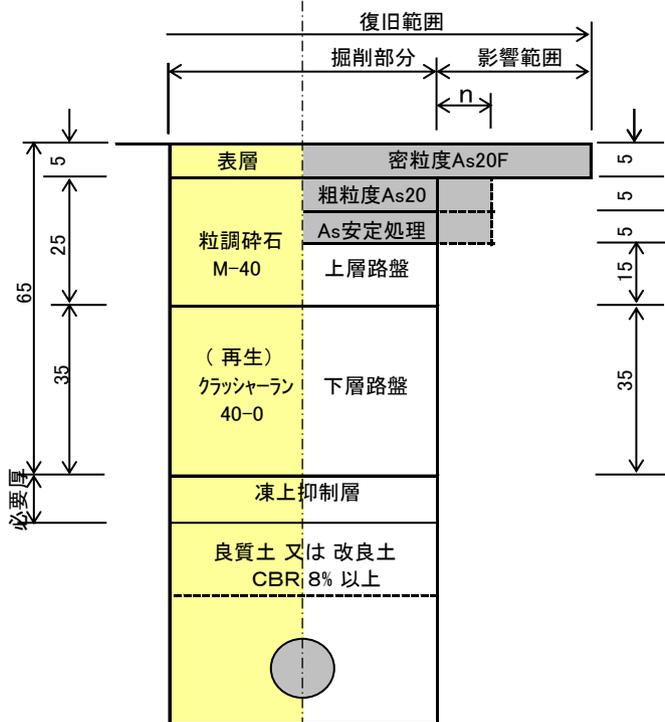
【仮復旧】 【本復旧】



As-B タイプ

B交通（ $250 \leq T < 1000$ ）
（標高950m超は凍上抑制層必要）

【仮復旧】 【本復旧】



※ 復旧範囲については、舗装復旧範囲平面図を参照のこと。

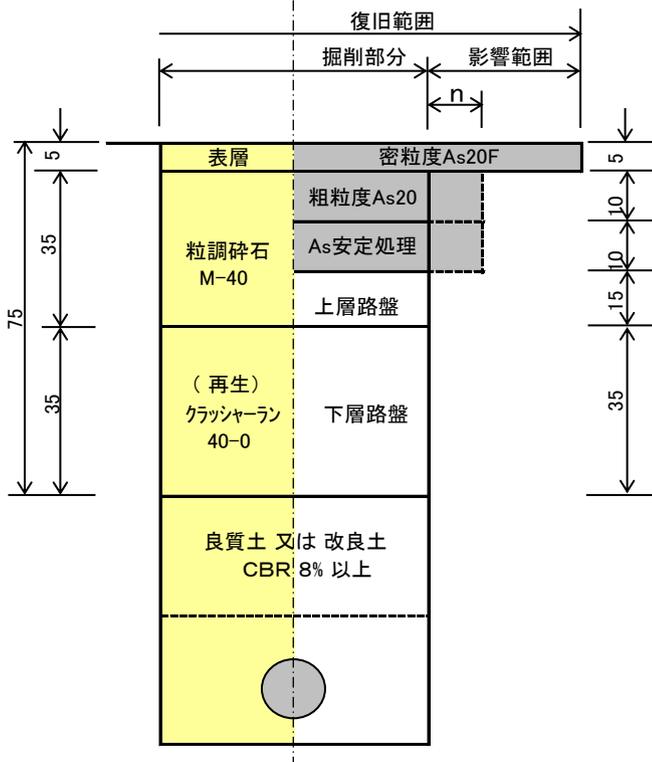
As-C タイプ

C交通 (1000 ≤ T < 3000)

(標高1200m以上は凍上抑制層必要)

【仮復旧】

【本復旧】



※ 復旧範囲については、舗装復旧範囲平面図を参照のこと。

舗装復旧標準断面図

(2) コンクリート舗装：車道部

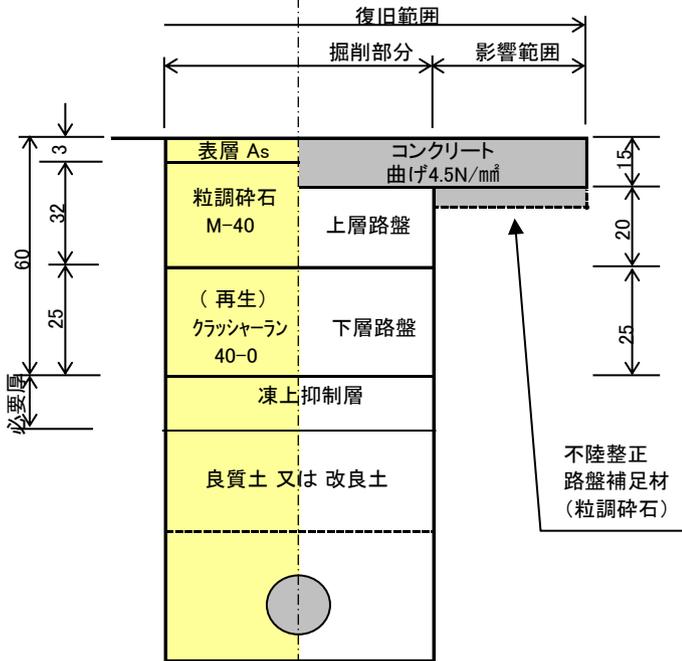
Co-L タイプ

L交通 (T<100)

(標高850m超は凍上抑制層必要)

【仮復旧】

【本復旧】



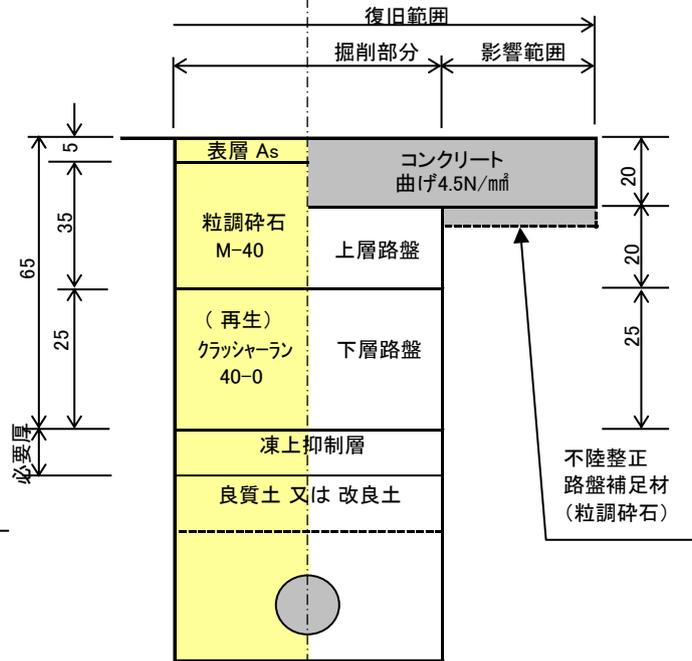
Co-A タイプ

A交通 (100 ≤ T < 250)

(標高950m超は凍上抑制層必要)

【仮復旧】

【本復旧】

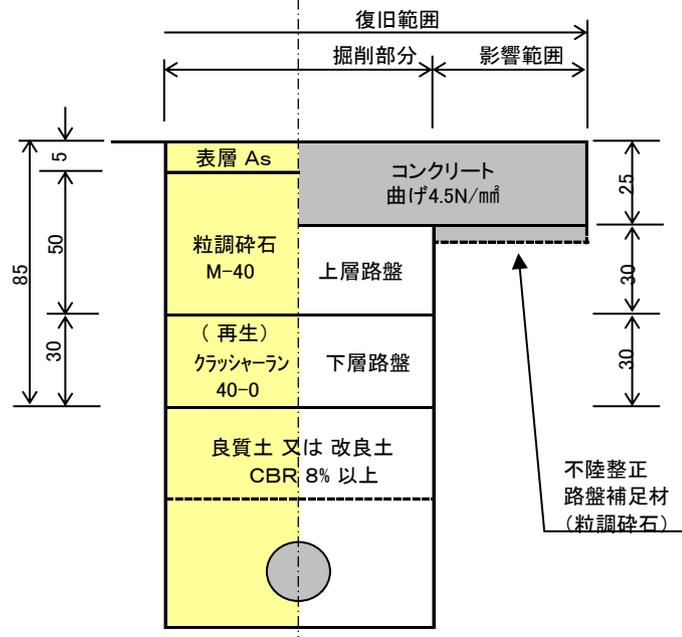


Co-B タイプ

B交通 (250 ≤ T < 1000)

【仮復旧】

【本復旧】

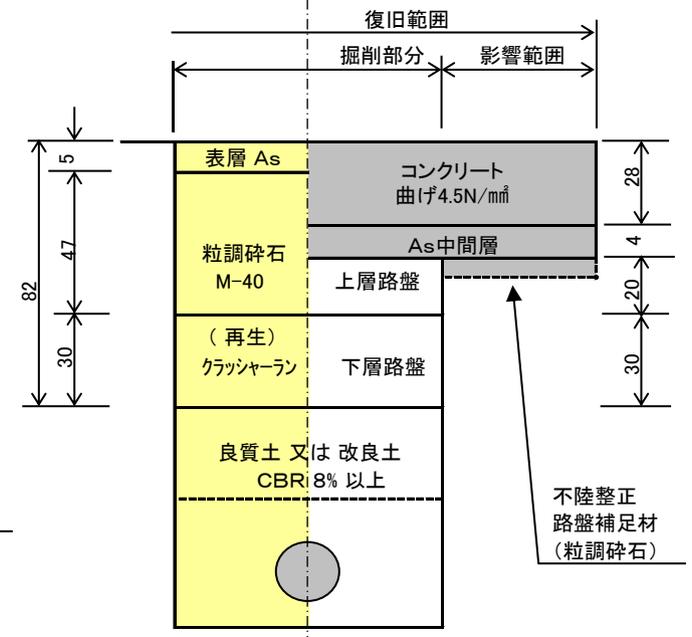


Co-C タイプ

C交通 (1000 ≤ T < 3000)

【仮復旧】

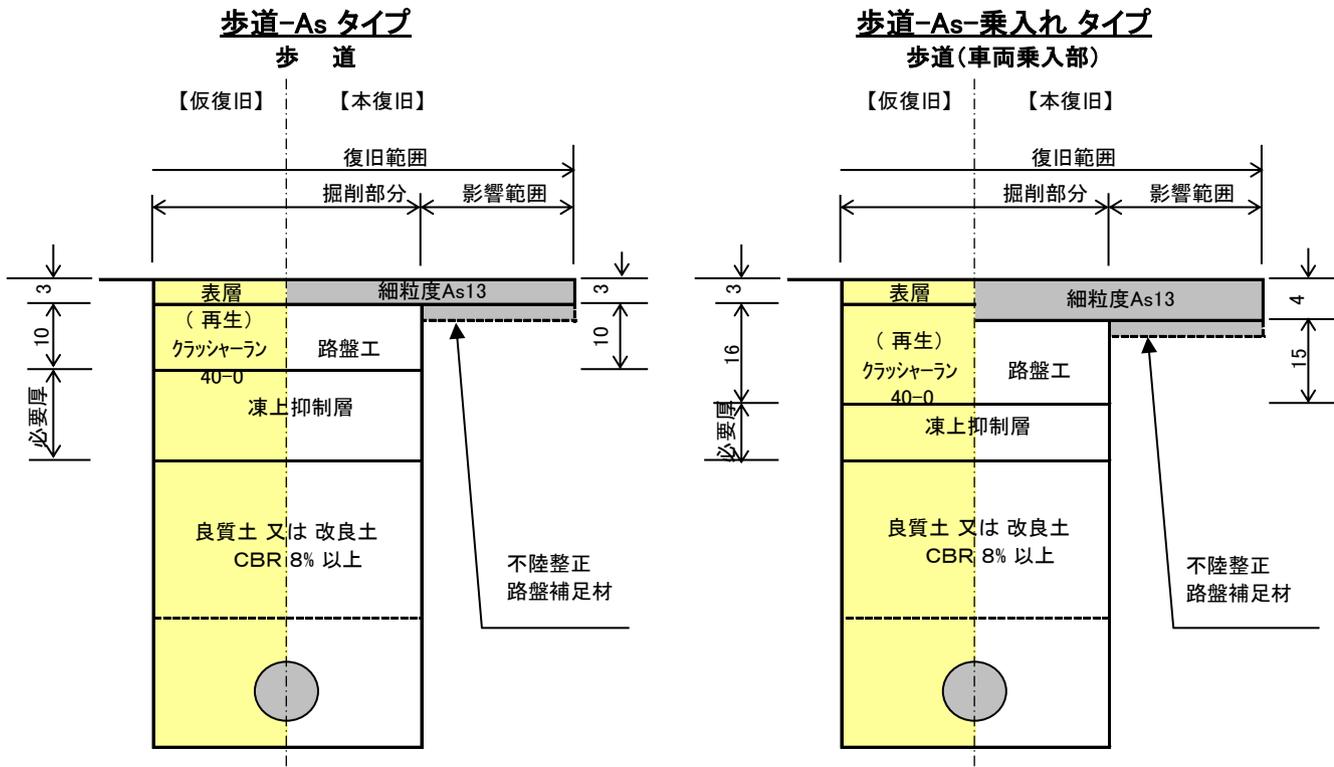
【本復旧】



※ 復旧範囲は、原則として縦及び横目地までの一枚版単位とする。ただし、道路中心線と平行方向について、道路法施行規則第4条の4の7第1項に規定する影響部分の端から横目地までの距離が、収縮目地にあつては1.2m、膨張目地にあつては1.8m以上である場合で、市長が認めた場合には、その影響部分までの範囲とすることができる。

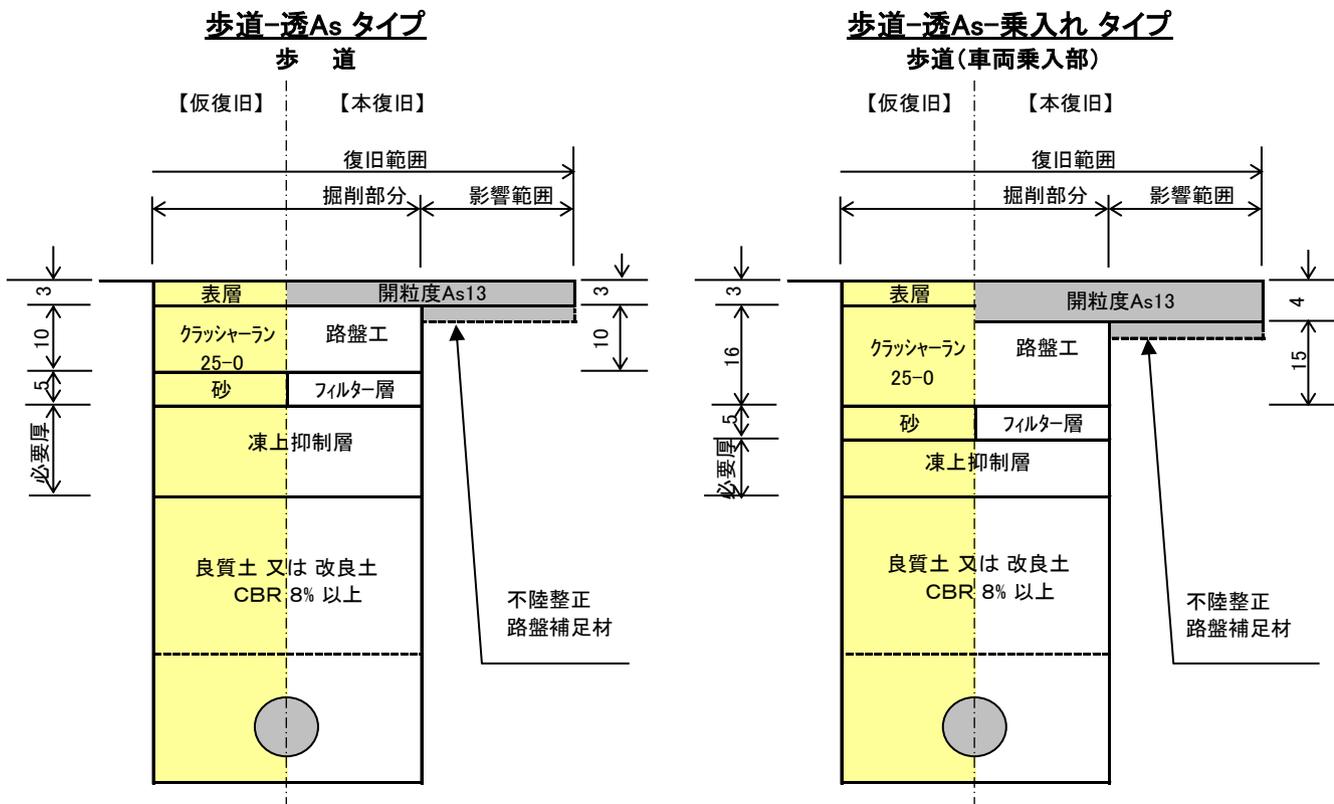
舗装復旧標準断面図

(3-1) アスファルト舗装：歩道部



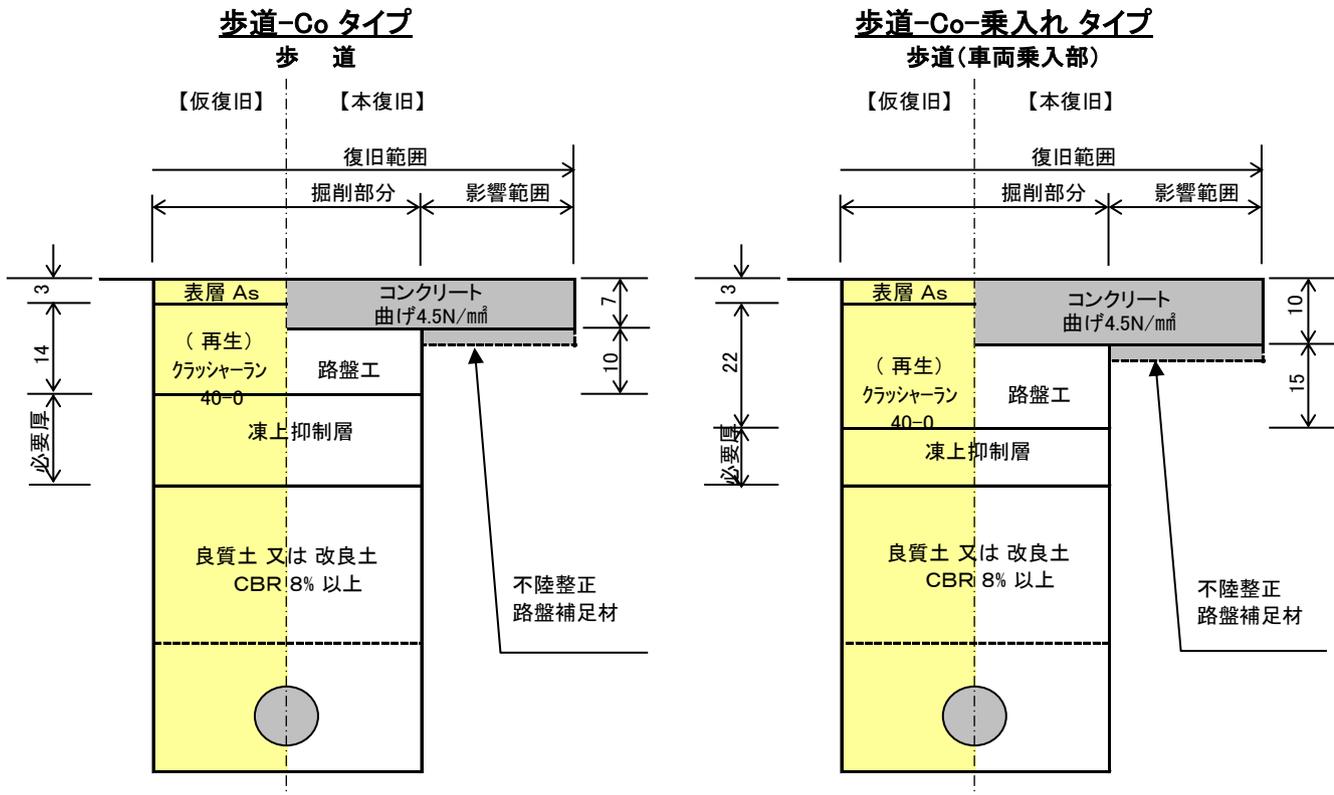
※ 復旧範囲については、舗装復旧範囲平面図を参照のこと。

(3-2) 透水性アスファルト舗装：歩道部



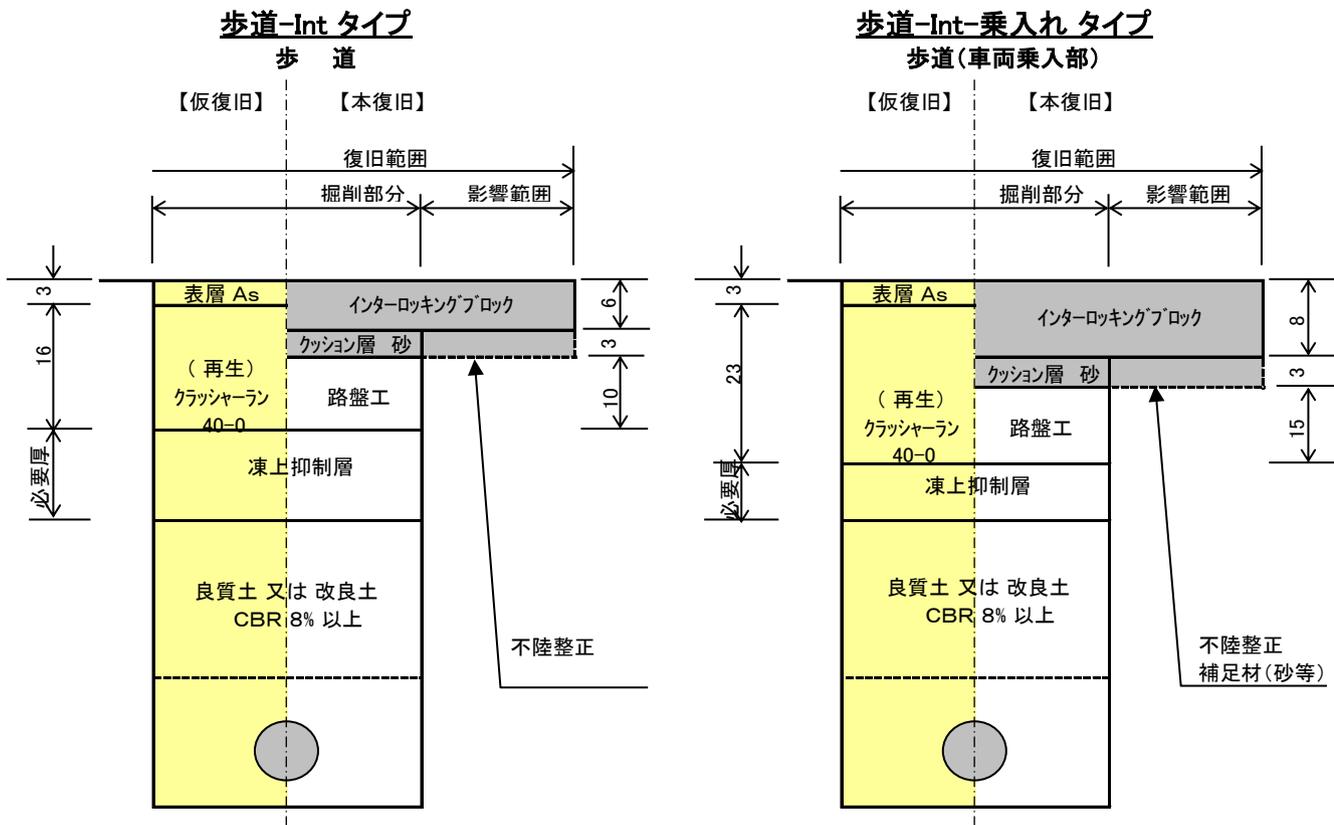
※ 復旧範囲については、舗装復旧範囲平面図を参照のこと。

(3-3) コンクリート舗装：歩道部



※ 復旧範囲は、原則として縦及び横目地までの一枚版単位とする。ただし、道路中心線と平行方向について、道路法施行規則第4条の4の7第1項に規定する影響部分の端から横目地までの距離が、収縮目地にあつては1.2m、膨張目地にあつては1.8m以上である場合で、市長が認めた場合には、その影響部分までの範囲とすることができる。

(3-4) インターロッキングブロック舗装：歩道部

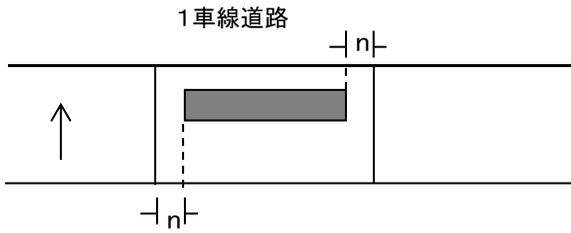


※ 復旧範囲については、舗装復旧範囲平面図を参照のこと。

舗装復旧範囲平面図(1)

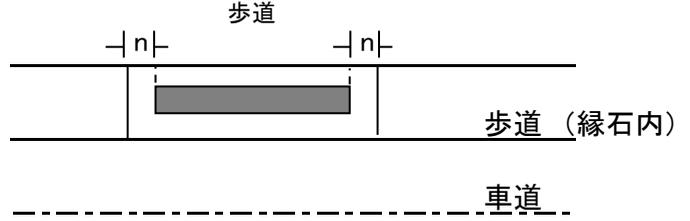
※アスファルト舗装に適用する

平面図-1

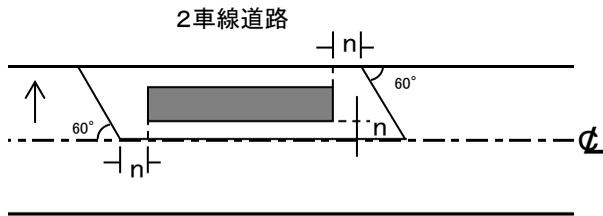


※ 都市計画区域外(飯綱地区都市計画は適用範囲)に限り、幅員3m以下全幅復旧、3mを超える幅員では舗装状況により個別に協議することができる。

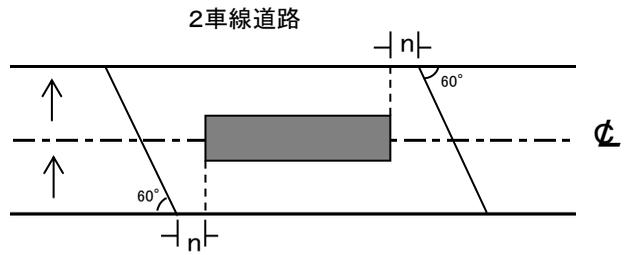
平面図-2



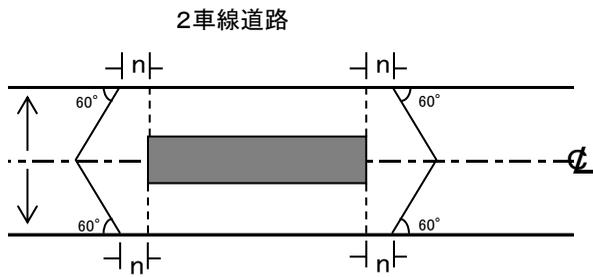
平面図-3



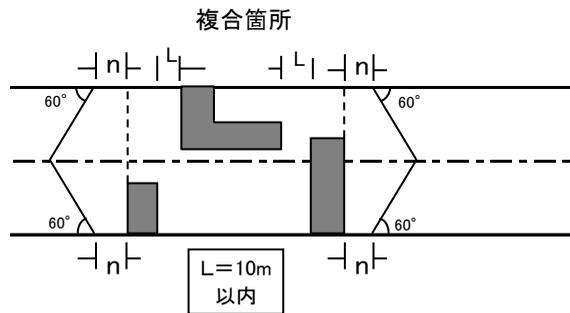
平面図-4



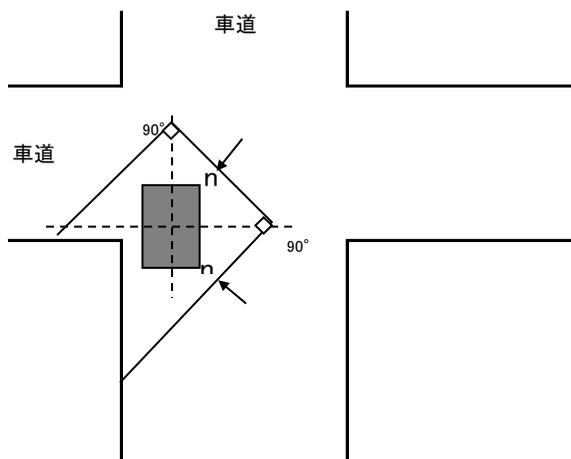
平面図-5



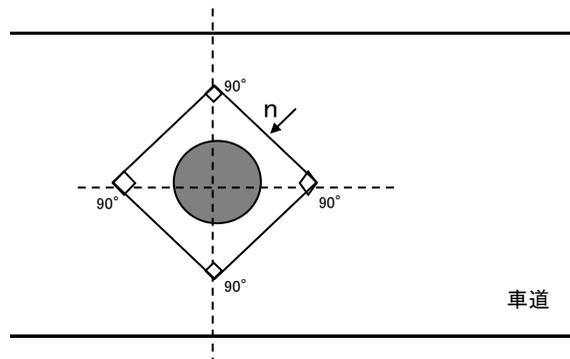
平面図-6



平面図-7



平面図-8

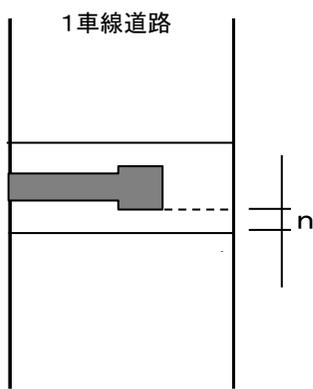


- は、掘削部分を示す。
- nは影響幅とする。
(影響幅は現況路盤厚と同値とし、不明の場合又は特に指示がない場合は30cmとする。)
- 道路横断方向の矢印→は路面の横断勾配を示す。

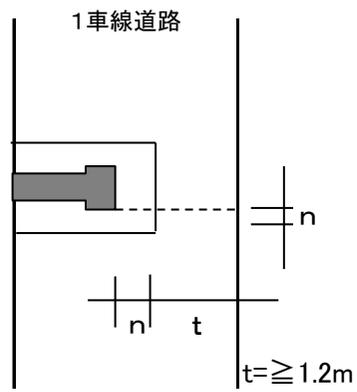
舗装復旧範囲平面図(2)

※アスファルト舗装に適用する

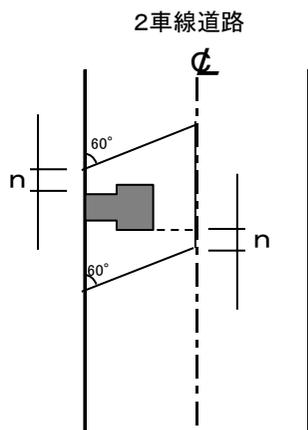
平面図-9



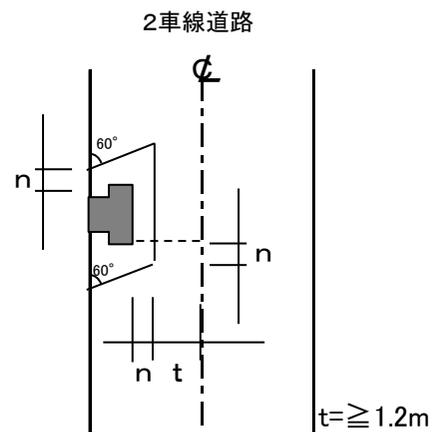
平面図-10



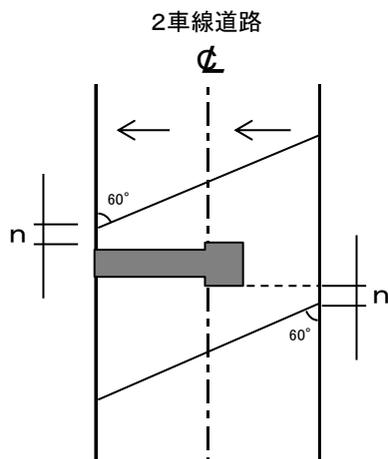
平面図-11



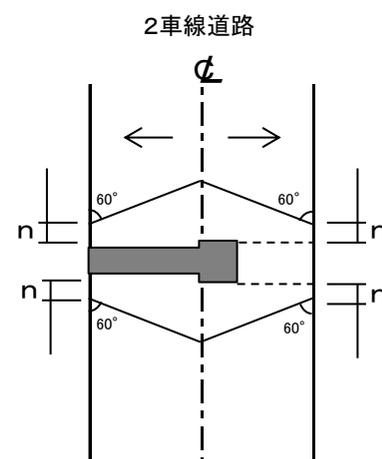
平面図-12



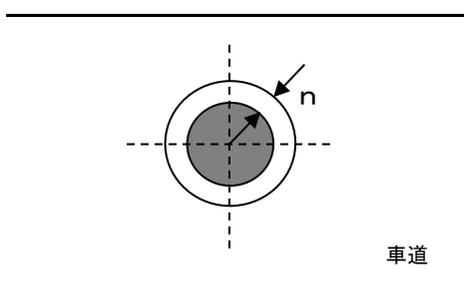
平面図-13



平面図-14



平面図-15



- ・  は、掘削部分を示す。
- ・ n は影響幅とする。
(影響幅は現況路盤厚と同値とし、不明の場合又は特に指示がない場合は30cmとする。)
- ・ 横断方向の矢印→は、路面の横断勾配を示す。

舗装復旧範囲平面図(掘削規制)

(1)各戸への引き込みの場合

イ)復旧延長:L

[1] $W1 \geq 4m$ のとき

$$L = \left\{ L0 + 2 \left(\frac{1}{2} W1 \right) \right\} m$$

[2] $W1 < 4m$ のとき

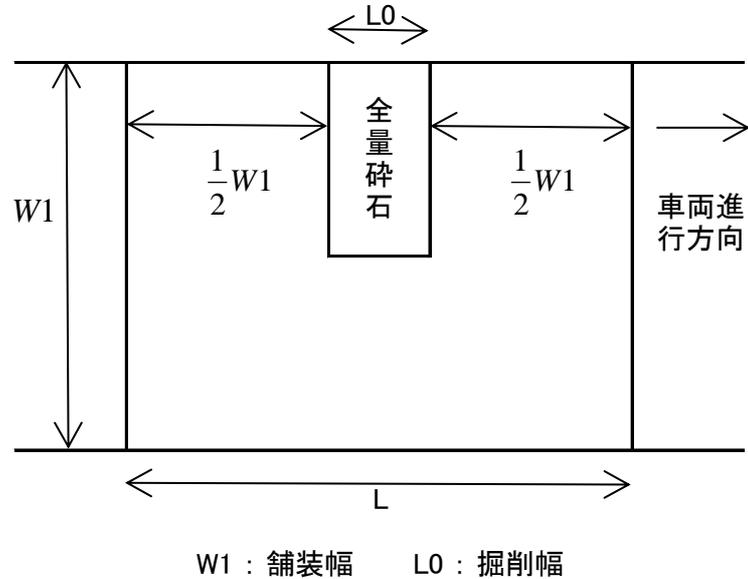
$$L = (L0 + 4)m$$

ロ)復旧幅:全幅

2車線以上は影響角60度

ハ)復旧種

該当市道舗装と同等の復旧種とし、全量砕石とする。



(2)交差点部分及び開発行為の場合

イ)復旧延長:L

[1] $W1 \geq 4m$ のとき

$$L = (L0 + 2W1)m$$

[2] $W1 < 4m$ のとき

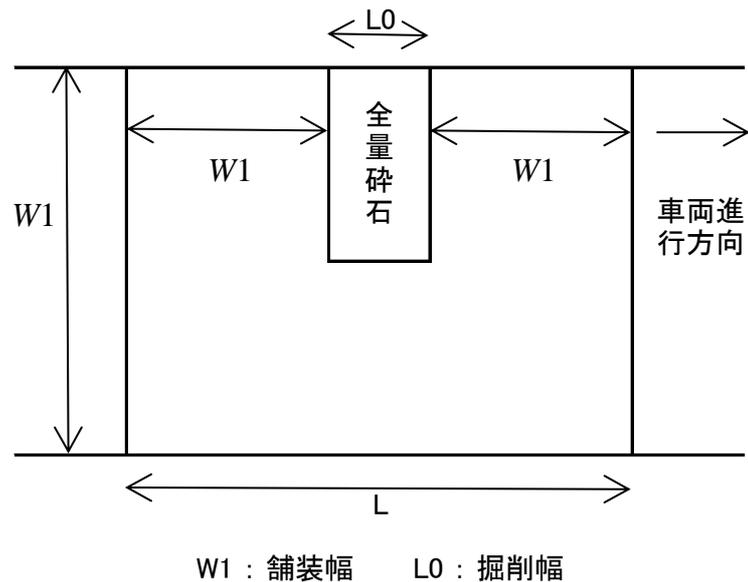
$$L = (L0 + 8)m$$

ロ)復旧幅:全幅

2車線以上は影響角60度

ハ)復旧種

該当市道舗装と同等の復旧種とし、全量砕石とする。



(3)インターロッキング、平板及びその他特殊な場合³

復旧延長、幅については、道路管理者と協議とする。

◎ 道路法施行規則第4条の4の7(埋戻し又は表面仕上げを行う道路の部分)について

道路法施行規則第4条の4の7第1項

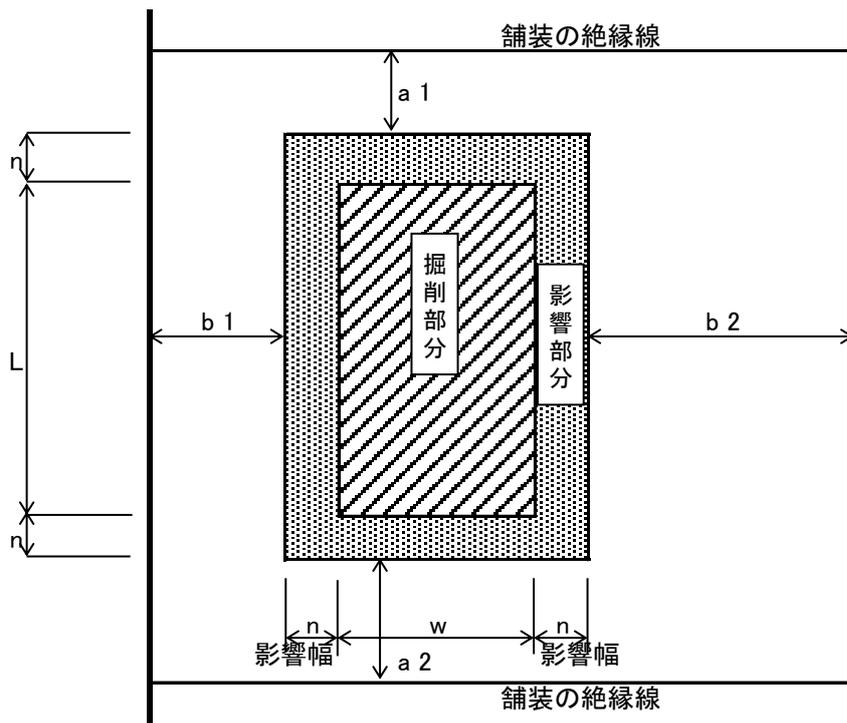
占用のため掘削した道路を復旧する場合において、埋戻し又は表面仕上げは、掘削部分及び掘削部分に接続する道路の部分のうち、舗装道にあっては掘削部分の外側の舗装の絶縁線(掘削部分の端から舗装の絶縁線までの距離が次の式によって計算したnの値以下である場合又はnの値に1.2メートル(道路中心線の方に垂直な舗装の絶縁線が膨張目地である場合にあっては、1.8メートル)を加えた値以上である場合にあっては、掘削部分の端からの距離がnの値の直線)で囲まれた部分、舗装道以外の道路にあっては掘削部分の端からの距離が掘削部分の幅に0.1を乗じて得た値に相当する直線で囲まれた部分について行うものとする。

$$n = k \cdot t$$

この式においてk及びtは、それぞれ次の値を表すものとする。

k セメント・コンクリート舗装の道路にあっては1.4、アスファルト系舗装の道路にあっては1.0

t 掘削部分の路盤の厚さ



$$S = (L + 2 \cdot n + a1 + a2) \times (W + 2 \cdot n + b1 + b2)$$

S 道路法施行規則第4条の4の7第1項に規定する範囲

L 掘削部分の長さ

W 掘削部分の幅

a1, a2 ... 影響部分の端から道路中心線と直角方向の舗装絶縁線までの距離で、1.2m(コンクリート舗装の膨張目地に係るときは1.8m)以上のときは0とする。

b1, b2 ... 影響部分の端から道路中心線と平行方向の舗装絶縁線までの距離で、1.2m以上のときは0とする。

n 路盤の厚さが不明の場合又は特に指示がない場合は、アスファルト舗装については30cm、コンクリート舗装については0cmとする。

道路法施行規則第4条の4の7第2項

道路の構造、交通の状況、土質等の関係から前項に規定する部分についての表面仕上げによっては掘削前の構造耐力を保持することが困難であると認められる場合においては、表面仕上げは当該部分に加えて掘削前の構造耐力を保持する必要な部分について行うものとする。